

友生小だより

伊賀市立友生小学校 学校だよりNo.18 2026年2月5日



「第一回ビブリオバトル伊賀市大会」に参加しました。



1月17日(土)、「第一回ビブリオバトル伊賀市大会」がハイトピア伊賀で行われました。

これは、子どもたちの読書推進を目的に、伊賀市の図書館事業の一つとして、実施される大会です。

昨年のプレ大会に続いて、今年度、第一回大会が実施されました。

市内の18小学校から代表一名が参加して3つのグループに分かれ、各グループで「チャンプ本」を

決定するというものです。参加者は、それぞれ自分で選んだ本を持ち寄り、3分間で本の魅力や自分の思いを紹介し、その後グループメンバーで質問や感想などのディスカッションを2分間行い、最後に「どの本が一番読みたくなかったか？」を基準に、参加者や出席者が投票してチャンプ本を決める、というしくみです。

ビブリオバトルでは、普段の読書で培われた知識以外にも、論理的で説得力のある発表内容を作ったり、3分間という決められた時間を有効に活用して、メリハリをつけ身振り手振りを取り入れるなど、聞く人の集中が途切れないようなプレゼンテーションをしたりと、さまざまな力が求められます。また、一方的に話すだけでなく、質問を投げかけるなど聞き手とのコミュニケーション力や、ディスカッションでは短い時間内で自分の意見をまとめ発表する力も求められます。

本校からは6年生児童が代表として参加し、見事グループのチャンプ本に選ばれました。本の主人公と自分を重ね、しっかりと本の魅力を伝えただけでなく、ディスカッションでは他の参加者の本の魅力を引き出す的確な質問を誰よりも多く発表するなど大会を盛り上げ、参加者全員に読書の魅力を感じさせる大活躍でした。



れんしゅう せい か ぞんぶん はっき 練習の成果を存分に発揮できました

1月31日(土)、漢字検定を実施しました。これは、
外国にルーツのある子どもたちが自分の力に応じた
級を希望して漢字検定にチャレンジする伊賀市全体
の取り組みで、それぞれ自分の学校を会場として
実施されます。友生小学校でも、たくさんの子どもた
ちが受検しました。受検という、いつもと違う雰囲気
のせい、ちょっと緊張した表情でしたが、この日の
ために学校の休み時間にコツコツと練習を重ねて
きた子どもたちは最後までねばり強く取り組み、終了後は、やりきった満足感で、すてきな表情をしていま
した。



ねんせい かわぐち で がくしゅう 5年生、川口さんとの出あい学習



2月3日(火)、5年生が、伊賀市人権生活環境部
人権政策課の川口素生さんにお話を聞かせて
頂きました。川口さんには3年生の時にもお話を
聴かせて頂いており、2回目の出あい直しの学習
となります。

子どもたちは、前回学んだことをしっかりと覚えて
いて、この日の出あい直しの学習を楽しみにして
いました。

前回の話では「みんなが安心して過ごせるクラスを作るために、ぜひやってほしいこと」として、
「人の気持ちを想像してみる」「自分を振り返ってみる」と2つの宿題をもらっていたことを踏まえ、
今回の話では、「人の気持ちを想像してみたら、次は、それを相手に確かめてみるのがとても大切。確
かめ合える関係、なかまとのつながりを、ぜひ作ってほしい。」と話してくださいました。

また、ご自身の体験をもとに、「人を大切にしてほしい。それにはまず、相手の話を聴くこと。真剣に聴く
ことで、相手にも大切に思っていることが伝わります。そして、聴いて知ったこと、感じたことを相手に伝えて
ください。そうやって、つながってほしいと思います。」とおっしゃられ、最後に「『普段の生活』を大切
にしてほしい。みんなは、これからも必ず人と出会って、関わりながら生きていきます。人と関係をつくって、
人とつながりながら生きていくために、人権学習を学んでほしい。」と話してくださいました。

この後、さらに学びを深め、日常に活かせるように学習を進めていきます。